

るに拘はらず聯盟協會の一員たる東京毎日をして兎も角も経過の概略なりとも掲載すべく餘儀なからしめ且つ萬朝報をして聯盟協會よりの除名に對し紙上にその抗辯をなさしめたること、第五は一般印刷業者が新聞社に應援することを同避するの餘義なきに至らしめしこと等なり。

正進會運動の先驅をなし喧鬨の結果活字棚を轉覆して報知新聞工場より收監者を出したる如きあるも、これは運動の目的及手段にあらざる暴行行爲をなし刑に問はれたるものにして固より止むを得ざる所とすべく、單に運動の主要人物として誅首せられたる多數あり、是等に對しては聯盟協會は黒表を作成して一定期間同業者間に差入れざる申合せをなしたるに拘はらず既に甲社にて誅首したる者を乙社にて傭ひ入れたる事實あり、従つて彼等は之に依て痛切なる失業難に遭遇せるにあらず、況んや各新聞社に於ては今後職工の需要増加すとも減することなかるべし、而かも新聞工養成は之に伴はざるに現状に於てをや。

因みに各社の解雇者に對する手當金の多寡を見るに、東京朝日は既記の如くにして、東京日日は全く與へず、報知新聞は五十圓以上三百圓、讀賣及やまとは五圓以上五十圓を給したりと云ふ。

東京毎日の背信彈刻

以上の如く正進會運動を因として、労働組合同盟會の活動に依つて副生したる興味ある問題は萬朝報の聯盟協會よりの除名處分に對する紙上の抗辯と労働組合同盟會の東京毎日新聞背信彈効の二とす裏面の事情が如何にあるにせよ、正進會の運動の結果、萬朝報は全要求を認容し之が爲め聯盟協會より除名せられ、十五社より種々の壓迫を受くることとなりたるに拘はらず、平素労働者の味方、労働新聞を以て任じ居れる東京毎日新聞は之を默過して聯盟協會の一員として踏止り、正進會の運動に對する經營者側の對抗策に參割して事實上労働者に對する敵對行動を執りつゝあるは不信も甚だしとて東京毎日新聞に對する態度を定むるの必要ありとの理由にて十月十一日夜府下大久保なる信友會幹事野村孝太郎氏宅に労働組合同盟會の緊急代表員會を開催せり、協議の結果、聯盟協會より一社にても多く脱退せしむること、及び萬朝報をして聯盟協會と戦はしむることの二項を決し差し詰東京毎日を説得することの運動を開始することとして、翌十二日組合同盟代表者等は東京毎日に藤田社長を訪ねたるも不在と稱して會見せず、代表者等は其足にて直ちに萬朝報を訪問し斯波編輯長に會見して「正進會の運動の敵は東京朝日及東京日々の二社なり、他は多く眼中に置くを要せず、若し萬朝報にして全力を擧げて此の兩社と戦はゞ、誓つて吾等は協力以て萬朝報を支持すべし」と持掛けたるに、斯波氏は答へて曰く「我社は朝日、日々より營業上の敵として多年苦しめられたり、今戦ふは辭する所にあらざるも挑戦は出來難し、其の中に機會にあらば大に戦はん考へなり」と、代表者は之を諒として會見を終り、更に同社より電話を以て再び東京毎日の藤田氏に會見を申込みたり、氏は四五名の代表者